

要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断の結果について<宮崎市所管分>

建築物の耐震改修の促進に関する法律附則第3条3項において準用する同法第9条の規定に基づき、公表します。

【ホテル】

NO	建築物の名称		建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果(附表参照)	耐震改修等の予定		備考	
							内容	実施時期		
1	株ユニオンコート (ホテルメリージュ)		宮崎市橋通東3丁目1番1号	ホテル	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」 (2001年版)	Is/Is ₀ =1.01 C _{TU} ・S _D =0.62	—	—	・耐震改修済み ・用途指標U=1.1として診断	
2	宮崎観光ホテル(西館)		宮崎市松山1丁目51番	ホテル	—	—	—	—		
	A棟 (西側)	塔屋(RC造)			一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」 (2001年版)	Is/Is ₀ =1.02 C _{TU} ・S _D =0.55				・耐震改修済み
		3～7階(RC造)			一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」 (2001年版)	Is/Is ₀ =1.01 C _{TU} ・S _D =0.54				・耐震改修済み
		ゾーン1(S造) 8階			一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	Is/Is ₀ =1.40 q値=1.05				・耐震改修済み
		1～2階(SRC造)			一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」 (2009年版)	Is/Is ₀ =1.01 C _{TU} ・S _D =0.41				・耐震改修済み
	B棟 (東側)	塔屋部分(SRC造)			一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」 (2009年版)	Is/Is ₀ =1.01 C _{TU} ・S _D =0.44				・耐震改修済み
		ゾーン2(S造) 10階			一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	Is/Is ₀ =1.02 q値=1.02				・耐震改修済み
		ゾーン1(S造) 8階			一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	Is/Is ₀ =1.05 q値=1.40				・耐震改修済み
本体部分(SRC造) 1階～9階		一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」 (2009年版)	Is/Is ₀ =1.00 C _{TU} ・S _D =0.43	・耐震改修済み						
3	アリストンホテル宮崎 (旧ホテルグランディ宮崎)		宮崎市橋通西3丁目1-1	ホテル	—	—	—	—		
	1階～11階(SRC造)	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」 (2009年版)			Is/Is ₀ =1.15 C _{TU} ・S _D =0.26	・耐震改修済み				
		地下1階、PH階(RC造)			一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」 (2001年版)	Is/Is ₀ =1.19 C _{TU} ・S _D =0.319				・耐震改修済み
4	青島グランドホテル		宮崎市青島1丁目16番64号	ホテル	—	—	—	—		
	塔屋A部分(RC造)	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」 (2001年版)			Is/Is ₀ =1.04 C _{TU} ・S _D =0.59	・耐震改修済み				
		塔屋B部分(RC造)			一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」 (2001年版)	Is/Is ₀ =1.65				・耐震改修済み
	3～7階部分(RC造)	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」 (2001年版)			Is/Is ₀ =1.02 C _{TU} ・S _D =0.58	・耐震改修済み				
B1～2階部分(SRC造)	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」 (2009年版)	Is/Is ₀ =1.01 C _{TU} ・S _D =0.44	・耐震改修済み							

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

以下は、震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示します。

注意 いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはありません。

※「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」の欄に記載の、 I_s/I_{so} は、特記のあるものを除き、用途指標 $U=1.0$ 、地域指標 $Z=0.9$ として算定している。

耐震診断の方法の名称		I	II	III
		(大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。)	(大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。)	(大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。)
一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)		$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)		$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」(2001年版)		-	-	$1.0 \leq I_s/I_{so}$